

春秋山伏記プロジェクト第一回舞台公演

藤沢周平 春秋山伏記 「試験し」

藤沢周平「試験し」(新潮文庫『春秋山伏記』所収)

2021 10/22(金) - 10/24(日)

出演

白幡 大介 (劇団文化座)

渋谷 宏美 (キャンパスシネマ)

大場 圭祐 (演技集団 朗)

佐藤 輝 (オフィス天童)

構成・演出 / 佐藤 輝
音楽・演奏 / 上田 亨
ステージング / 神崎 由布子
制作 / 天童 真理子

後援 / 山形県
協力 / 出羽三山神社
藤沢周平事務所
鶴岡市立藤沢周平記念館

東京・神楽坂

THEGLEE

TEL 03-5261-3124

(平日10:00~18:00 電話では予約を受け付けておりません)

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂3-4 AYビルB1
JR/東京メトロ 飯田橋駅 神楽坂寄り出口から徒歩5分

企画・製作 オフィス天童 **office TENDO**
info@office-tendo.jp <http://office-tendo.jp>

藤沢周平 春秋山伏記 「お試し」

出演



白幡 大介
(劇団文化座)



渋谷 宏美
(キャンパスシネマ)



大場 圭祐
(演技集団 朗)



佐藤 輝
(オフィス天童)

春秋山伏記プロジェクト

作者が『春秋山伏記』に込めた故郷・山形県庄内地方への熱い想い。
その想いに共感した庄内地方出身のプロ俳優、表現者たちが、佐藤輝の呼びかけに応じて集まり、自らの庄内弁を駆使して『春秋山伏記』をレベル高く舞台化し、語り継ぎ、東京から広く発信するプロジェクトです。
本公演が未来へつなげるプロジェクトのスタートです。
プロジェクトメンバー、サポーターを募集しています。

構成・演出／佐藤 輝 音楽・演奏／上田 亨 ステージング／神崎 由布子
衣裳／竹林 正人 宣伝美術／COME-LAB 制作／天童 真理子
後援／山形県 協力／出羽三山神社 藤沢周平事務所 鶴岡市立藤沢周平記念館

2021年

10月22日(金) - 10月24日(日)

開演時間 22日(金) 19時開演
23日(土) 14時開演 / 19時開演
24日(日) 13時開演
開場は開演30分前です

入場料金

【全席自由席】 5,000円 + 当日会場でワンドリンク(800円)

チケット取り扱い

- ▶ THEGLEE <http://theglee.jp>
HP当公演情報拡大ページの「プレイガイドでチケット購入」からお申し込みください。
- ▶ オフィス天童 <http://office-tendo.jp>
HPチケット申し込みフォームからお申し込みください。

東京・神楽坂

THEGLEE

☎ 03-5261-3124
(平日10:00~18:00)
この電話では予約は受け付けておりません。

〒162-0825
東京都新宿区神楽坂3-4
AYビルB1

🚗 JR/東京メトロ 飯田橋駅
神楽坂寄り出口から徒歩5分

◎お問い合わせ

オフィス天童 *office-TENDO*

〒136-0076 東京都江東区南砂2-34-8 東陽町ガーデニア1404
info@office-tendo.jp <http://office-tendo.jp> 03-3649-8754



「稲を見る」

大鷲坊は、大声で背中のおきくに話しかけていた。

「きれいだろうが。稲はなして(なぜ)きれいだか。命があって、生きているさげ、きれいだ。わかるかの？」

稲だって、一所けんめい生きださげ、こうして稔って、きれいに光るようになった」

「おきぐも、これから稔らねばの。

そのうち、この稲みてえに、光るようになるぞ」

『春秋山伏記』より

藤沢周平が描いた

故郷の「庄内人」

藤沢周平『春秋山伏記』(新潮文庫所収)

村の神社の別当として羽黒山から遣われ、村に定住した若き里山伏・大鷲坊(たいしゅうぼう)と村人たちの交流を、庄内地方の美しい四季の変化を背景に心暖まるヒューマンなタッチで描いた作品。江戸時代後期の農村の日常を舞台とし、そこで暮らしている村人が主人公の異色時代小説。サスペンスに艶笑譚も織り込んで、遅くユーモラスな人間模様が生き生きと描かれる。「お試し」「狐の足あと」「火の家」「安蔵の嫁」「人攫い」の5編からなる。作者が特に庄内弁にこだわって、庄内地方の風土と庄内人の心情を描いた物語。

お試し

川治いの崖から赤川に滑り落ちそうになった娘たみえの腕を、おとしが腹ばいになって必死に掴んでいる。たみえの足の下には、淀みと呼ばれる深淵が激しく渦を巻き、声を限りに助けを求めても真夏の昼の野に人影は見えない。もう駄目だと思った瞬間、たみえの体が持ち上げられた。間一髪で救ってくれたのは、村の神社に別当として着いたばかりの山伏・大鷲坊だった。神社には何年前から月心坊という山伏が住み着いていた。実はもぐりの山伏ながら村人からは本物の別当と思われ、頼りにされている存在だった。月心坊は大鷲坊と交代することを拒んだ。村役人はこの判断のために「村人には、法力のある山伏が必要だ。大鷲坊の法力を試すために」と、ある提案をした。